

「高校生文芸道場」は、全国八地域にて行う「ブロック大会」と各地域の代表者が参加する「総合大会」から成り、ブロック大会は地域の高校生が著名な文人の講演会や研修会等に自由に参加し、また参加者が互いに交流できるような機会を設けることによって高校生の文芸活動の裾野を広げることが目的としており、総合大会は各地域の代表者が参加することによってその活動を全国的な規模において展開することを目的としている。

高校生文芸道場ブロック大会

昨年八月二五日(水)、神奈川県立近代文学館にて開催された高校生文芸道場関東ブロック大会(神奈川県大会)を皮切りに、全国八地域(合同開催を含む六大会)において実施されたブロック大会では、地域ごとに様々な事業を展開した。

(1) 北海道・東北ブロック大会(岩手大会)

日時/平成十一年一月二二日(木)
場所/岩手県民会館中ホール(盛岡市)、同会議室

内容/○三木卓氏(詩人・小説家)による講演会(演題:読書と人生)

○小説・戯曲・随筆・児童文学・詩・短歌・俳句・文芸誌各部門の分科会・合評会

(2) 関東ブロック大会(神奈川県大会)

日時/平成十一年八月二五日(木)

場所/神奈川県近代文学館ホール、同会議室(横浜)

内容/○三木卓氏(詩人・小説家)による講演会(演題:私が書きはじめたころ)

○ワークショップ(詩の朗読、推敲、合評会)

(3) 北信越ブロック大会(石川大会)

日時/平成十一年九月一九日(日)

場所/石川県立金沢二水高等学校(金沢市)

内容/○佐藤健氏(毎日新聞編集委員)による講演会(演題:人間観察学入門)

○散文・詩・短歌・俳句各部門別研修会・報告

(4) 東海・近畿ブロック合同大会(愛知大会)

日時/平成十一年一月二三日(日)

場所/日土地ビル三階クリスタルホール(名古屋)

内容/○長田弘氏(詩人)による講演

会(演題:書く、何を?)
○講師に対する質疑応答形式による討論会

○文芸創作にかかわる実践例発表会(交流会)

(5) 中国・四国ブロック合同大会(広島大会)

日時/平成十一年一月三〇日(日)

場所/広島県健康福祉センター八階大研修室(広島)

内容/○ねじめ正一氏(小説家)による講演会(演題:ことばを創作する)

○参加各校文芸部における創作活動の実践報告

(6) 九州ブロック大会(大分大会)

日時/平成十一年一月一七日(木)

場所/大分県立大分上野丘高校記念館

内容/○篠原憲二氏(詩学)編集発行人)による講演会(演題:詩と関わりつつ)

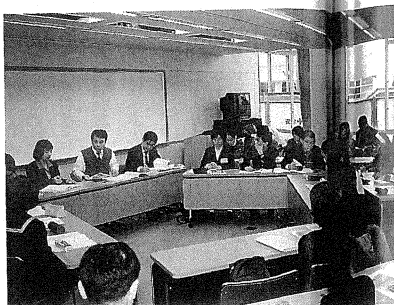
○詩・創作・短歌・俳句各部門の合評会

全国各地で開催された地域ブロック大会は、いずれも地域の高校生が多数参加し、各々の文芸創作活動の研鑽と高校生相互の交流が図られた。中でも神奈川県横浜市において行われた関東ブロック大会では、神奈川県高等学校文化連盟美術・工芸専門部、同写真専門部、同ボランティア専門部、同茶道専門部の協賛を得て、絵がみコンクール、写真展示、呈

地域こども文化プラン

高校生文芸道場

ブロック大会・総合大会



総合大会開会式における林田文化庁長官挨拶

分科会で熱心に討議する生徒たち(総合大会)

茶会といった協賛事業が彩りを加え、より広がりのある催しとなった。

高校生文芸道場総合大会

第一回高校生文芸道場総合大会は平成十一年二月九日(水)及び一〇日(金)の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて以下の日程で開催された。初日の参加者数は全国各ブロックからの推薦者に、同日同所にて開催された第一四回全国高等学校文芸コンクール出席者に加え生徒合計一四五名、引率教職員等も合わせた総数は一九七名となった。

【第一日目】一四:四〇~一七:五〇

開会式

基調講演「近代文学のはじまり」

三浦朱門氏(作家、元文化庁長官)

パネルディスカッション

提案講演「ことばを磨く」

開会式

開会式に引き続き、作家で文化功労者の三浦朱門講師による講演が行われた。近代文学のはじまり」と題された講演会においては、三浦講師が欧米と日本、また近代と現代の社会情勢と文学のおかれた位置などを対比させながら、明治以降のわが国における文学の歩みを述べられた。

続いて作家のねじめ正一氏を迎えてパネルディスカッションが開催された。ねじめ講師の提案講演「ことばを磨く」を受け、ねじめ講師と生徒たちが活発に意見を交換し、参加生徒それぞれが自らの創作活動に新鮮な刺激を受け、新たな創作意欲を燃やしたようである。

総合大会初日の夜、国立オリンピック記念青少年総合センターに宿泊した生徒たちの交

講演

演「異質なものととの出会い」

奥泉 光氏(作家)

全体会

ねじめ正一氏(作家)

パネルディスカッション

ねじめ正一氏、各部門代表生徒

他

交流会(一九:三〇~二一:〇〇)

【第二日目】九:〇〇~一二:四〇

分科会「散文」「詩」「短歌」「俳句」「文芸部誌」

全体会

ねじめ正一氏は午前九時から散文(小説)、詩、短歌、俳句、文芸部誌の各部門の分科会が行われた。各部門一四名の講師がそれぞれ専門分野を担当し、講師を中心として創作に向かう心構え、具体的な手法など、それぞれに実作に、またクラブ活動に直結する問題をテーマとして討議がなされた。

分科会で交わされた意見など講師による総括、また生徒から高校生文芸道場総合大会及びブロック大会に参加して感じたことなど、自由な意見を述べあう全体会を経て、作家の奥泉光氏による講演会が行われた。「異質なものととの出会い」と題された講演会においては、奥泉講師が実生活の中の体験を交えながら、自分以外の異質なものととの出会いを大切にしたいってほしいと述べられた。

二日間のプログラムの中で、生徒と講師がそれぞれ真摯な態度で向き合い、また生徒同士も活発に意見を交換しあった。そうした中で、それぞれの生徒が自分なりの成果を得ることができたように思う。今後とも本事業が、参加生徒にとって文芸創作活動のさらなる向上のきっかけとなっていくことを期待したい。(地域文化振興課)